

2021年度数字で見る全国遺跡報告総覧

高田祐一（奈良文化財研究所）

The Comprehensive Database of Archaeological Site Reports in Numbers, 2021

Takata Yuichi (Nara National Research Institute for Cultural Properties)

- ・データ量／Data quantity
- ・利用実績／Usage record
- ・活動報告／Activity report

全国遺跡報告総覧の経過やデータ件数などを報告する。

1. 現在のデータ件数とデータの流れ

全国遺跡報告総覧に登録されているデータ件数は以下の通り（2022年2月3日時点）。推移は表1。データ連携は図1。

PDFがある書誌登録数：30,432

総ページ数：3,752,217

総文字数：2,424,254,167

書誌登録数：112,768

書誌の発行機関数：1,859

遺跡抄録件数：138,919

文化財動画件数：706

文化財イベント件数：605

文化財論文件数：23,375

2. 全国遺跡報告総覧のこれまでの経過

2008年から2014年までは遺跡資料リポジトリである。

2008（平成20）年度

- ・中国地方5県域（大学）で遺跡資料リポジトリの運用開始（各大学が個別にサーバ管理）
- ・メタデータの収集
- ・作成開始（奈文研とも連携）
- ・報告書の電子化開始（NIIのCSI事業費）

2009（平成21）年度

- ・12府県域（大学）へ拡大（各大学が個別にサーバ管理）
- ・横断検索・全文検索に対応するためのシステム改修
- ・報告書の電子化（CSI事業費／科研費）

2010（平成22）年度

- ・20府県域（大学）へ拡大
- ・NII共同サーバ上にシステム構築（新規参加大学

表1 全国遺跡報告総覧に登録されているデータ件数の推移

年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021 (途中)
PDF登録件数	920	4,552	7,525	9,771	11,916	13,516	14,374	15,930	18,838	21,154	23,075	24,495	27,761	30,432
書誌登録数	920	4,552	7,525	9,771	11,916	13,516	14,374	15,930	18,838	21,154	48,694	68,769	88,067	112,768
抄録登録数											93,923	130,016	135,663	138,919
直接登録機関数					6	22	23	31	50	875	910	1,238	1,301	1,335
文化財動画登録数													410	706
文化財イベント件数													509	605
文化財論文件数													817	23,375

※2008年度から2014年度は遺跡資料リポジトリの統計。

向け)

- ・オープンカンファレンス開催 (2010.12@大阪)
- ・報告書の電子化 (CSI事業費/科研費)

2011 (平成23) 年度

- ・自治体セルフ・アーカイブ移行のためのシステム改修
- ・全国の自治体にアンケート調査を実施
- ・プロジェクトが推進する電子化仕様を公開
- ・ワークショップ開催 (2010.11 @東京/同.12 @福岡)
- ・報告書の電子化 (CSI事業費)

2012 (平成24) 年度

- ・CSI委託事業最終年度
- ・22府県域 (21大学) へ拡大
- ・報告書の電子化 (CSI事業費/科研費)
- ・奈文研と広域モデル実証実験開始 (報告書発行機関による直接参加が可能に)
- ・シンポジウム開催 (2012.11 @福岡)

2013 (平成25) 年度

- ・報告書の電子化 (科研費)
- ・奈文研とシステム移行に向けた協議開始

2014 (平成26) 年度

- ・島根大学附属図書館全国遺跡資料リポジトリ推進会議事務局が国立大学図書館協会賞を受賞 (2014.6)
- ・連携大学実務者会議でシステムの統合・移管が決定 (2014.11)
- ・旧システムの凍結及びシステム移行作業 (2014.12 ~)

2015 (平成27) 年度

- ・連携大学による新システムの検証 (負荷テスト等)
- ・全国遺跡報告総覧の公開 (公開時点の報告書14,374冊) (2015.6)
- ・データ登録再開 (2015.8)
- ・ディスカバリーサービス (Summon) との連携開始 (2015.9)
- ・報告書本文データの登録件数が15,000件に

(2015.10)

- ・シンポジウム開催 (2016.2@奈良)
- ・CiNii Booksとの連携開始 (2016.3)

2016 (平成28) 年度

- ・英語自動検索機能公開のお知らせ (2016.8)
- ・イベント情報 (文化財イベントナビ) の登録・公開機能を追加 (2016.9)
- ・シンポジウム開催 (2016.11 @奈良) 開催
- ・Worldcat (ディスカバリーサービス含む) との連携開始 (2017.2)

2017 (平成29) 年度

- ・ディスカバリーサービス (EDS) との連携開始 (2017.4)
- ・報告書の頻出用語を可視化したワードマップを公開 (2017.4)
- ・報告書本文データの登録件数が20,000件に (2017.7)
- ・文化財報告書にDOIの付与会誌 (2017.7)
- ・考古学関係用語辞書拡充 (2017.8)
- ・「データ登録に関する今後の方針」を公開 (2017.10)
- ・報告書発行機関向けの説明会を開催 (5会場: 奈良/仙台/岡山/福岡/東京)

2018 (平成30) 年度

- ・モバイル端末向けPDFの公開 (2018.8)
- ・遺跡 (抄録) 検索機能の公開 (2018.12)
- ・ディスカバリーサービス (Primo) との連携開始 (2018.12)
- ・全埋協抄録データベースの統合完了 (2019.1)
- ・奈文研での関連研修内容をまとめた刊行物を遺跡総覧で公開 (2019.3)
- ・報告書発行機関向けの説明会を開催 (5会場: 京都/福島/石川/埼玉/大分)
- ・引用表記の自動表示 (2019.2)
- ・都道府県別の発掘調査報告書総目録 高知県・島根県編の公開 (2019.3)

2019 (令和元) 年度

- ・欧州考古学情報基盤 ARIADNE Plus への奈良文

- 化財研究所の参画 (2019.4)
- 都道府県別の発掘調査報告書総目録 新潟県編の公開 (2019.4)
- 全国の遺跡や文化財に関するイベント情報検索機能公開 (2019.6)
- 都道府県別の発掘調査報告書総目録 大阪府編の公開 (2019.6)
- 奈文研抄録データベースの全国遺跡報告総覧への統合完了 (2019.6)
- 発掘調査報告書総目録 新潟県編の書誌情報を全国遺跡報告総覧に登録 (2019.11)
- 書誌ページ QR コード表示機能とシリーズ番号順並び替え機能公開 (2019.11)
- 報告書発行機関向けの説明会を開催 (5会場：佐賀／新潟／広島／愛知／東京)
- 発掘調査報告書総目録 大阪府・兵庫県・島根県・高知県編の書誌情報を全国遺跡報告総覧に登録 (2020.1)
- 類義語および OCR 誤認識用語検索機能の公開 (2020.2)

2020 (令和2) 年度

- 文化財動画ライブラリー公開のお知らせ (2020.8)
- 全国の発掘調査報告書の書誌情報13,583件を一括登録 (2020.10)
- 遺跡位置の世界測地系10進法への簡易変換表示機能の公開 (2020.11)
- 全国の文化財地図・遺跡地図、発掘調査報告書等の書誌情報1,814件を一括登録 (2020.12)
- 文化財動画ライブラリーがJAPAN SEARCH上で検索可能に。データ連携開始 (2020.12)
- 青森県・福島県・岡山県の発掘調査報告書等の書誌情報1,257件を一括登録 (2021.2)
- 文化財論文ナビの公開 (2021.3)

2021 (令和3) 年度

- 遺跡位置表示機能および Wikipedia 記事に全国遺跡報告総覧登録コンテンツを引用する際の表記を自動表示する機能の公開 (2021.4)
- 文化財論文情報の13,164件を一括登録 (2021.5)

- 文化財論文ナビの機能およびメタデータの追加 (2021.6)
- Internet Archeologyにて考古学デジタルアーカイブ特集号が発表 (2021.6)
- 文化財論文ナビにて類似論文の自動表示と共起ネットワーク図の追加 (2021.6)
- 北海道・埼玉県・岐阜県・福井県の発掘調査報告書等の書誌情報2,822件を一括登録 (2021.7)
- 文化財総覧 WebGISの公開 (2021.7)
- 岩手県・茨城県・石川県・和歌山県の発掘調査報告書等の書誌情報2,367件を一括登録 (2021.7)
- 山形県・秋田県・徳島県・山口県・佐賀県・長崎県・熊本県の発掘調査報告書等の書誌情報2,449件を一括登録 (2021.8)
- 群馬県・香川県・愛媛県・大分県の発掘調査報告書等の書誌情報1,895件を一括登録 (2021.9)
- 文化財論文情報の2,158件を一括登録 (2021.9)
- 宮城県・栃木県・神奈川県・静岡県等の発掘調査報告書等の書誌情報4,012件を一括登録 (2021.10)
- 千葉県・京都府・広島県・沖縄県の発掘調査報告

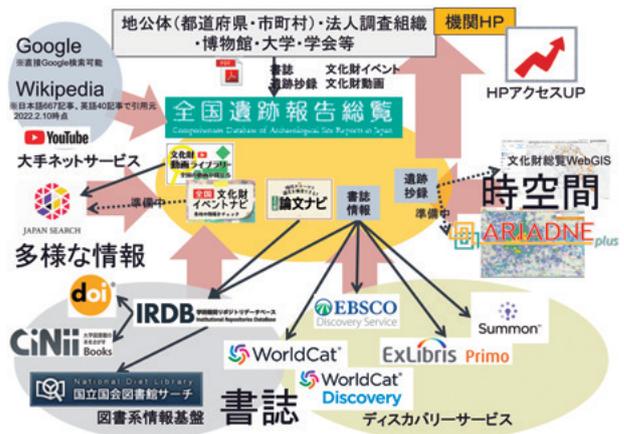


図1 全国遺跡報告総覧とのデータ連携

表2 全国遺跡報告総覧のアクセス数とページ閲覧数

年度	アクセス数	ページ閲覧
2015	-	-
2016	341万	1,155万
2017	886万	7,277万
2018	1,117万	1億302万
2019	1,557万	8,127万
2020	1,366万	7,849万



図2 報告書登録数とダウンロード数の推移

書等の書誌情報4,480件を一括登録（2021.11）

- ・愛知県・三重県・滋賀県・鹿児島県の発掘調査報告書等の書誌情報4,248件を一括登録（2021.11）
- ・文化財論文情報の3,628件を一括登録。遺跡報告内論考データベースのデータ移行完了（2021.11）
- ・文化財総覧WebGISにて表示中の状態を再現できる機能等の公開（2021.12）
- ・文化財論文情報の1,718件を一括登録（2022.1）

3. 利用統計

3.1 利用実績

2020年度の1年間のPDFダウンロード数は2,320,607件であった（図2）。アクセス数は1,366万件、ページ閲覧数は7,849万件だった（表2）。

Wikipediaでの遺跡総覧引用記事数

- 116記事（20170702時点） 英語版20記事
- 549記事（20210805時点）
- 571記事（20210904時点）
- 641記事（20211219時点） 英語版40記事
- 667記事（20220210時点） 英語版40記事



図3 Wikipediaでの全国遺跡報告総覧利用実績

3.2 Wikipediaからの流入

近年、遺跡総覧を出典とするWikipedia記事が増加している（図3）。Wikipediaでは、出典を明記することが重要で、表記スタイルに従う必要がある。書式に従い書誌・著者・URL・DOIなどのID類などを記述する必要がある。そこで、利便性・効率性・スタイルの正確さを高めるため、表記スタイルを自動表示し、コピー・アンド・ペースト（Copy and Paste）できるアイコンを公開した。刊行物、動画、論文それぞれの表記スタイルを用意した。Wikipediaから遺跡総覧への流入が増加傾向である。Wikipedia引用Templateもある（図6・7）。

3.3 小学校教育での利用が増加

2021年春以降、子ども用のポータルサイトであるヤフーキッズから遺跡総覧への流入が増加している（図4）。2点の傾向を読み取ることができる。①端末の普及。2020年以前の流入はほぼない。2020年前半は流入数が少なく、春以降から増加している。GIGAスクール構想において、2020年8月末時点で



図4 ヤフーキッズから全国遺跡報告総覧への日次流入数



図5 利用統計のダウンロード機能

の自治体への端末納品完了率は2.0%であったが、2021年7月末時点では、小学校96.1%が端末利用を開始した（文部科学省：https://www.mext.go.jp/content/20210827-mxt_jogai01-000017383_10.pdf）。遺跡総覧への流入も21年春以降に増加しており、端末の普及が影響しているとみてよいだろう。②授業利用。季節ごとの長期休み中においては、流入がとまる。またグラフが櫛歯状になっているのは、土日に流入がないためである。休み中に利用がなされていないということは、主に授業利用の際に、遺跡総覧を利用しているからといえるだろう。今後の学校利用の可能性を示唆する傾向である。適切にインターネット公開することで、子どもにも文化財への関心を持ってもらい、自らで探求心を育むことも可能となる。

3.4 ダウンロード統計情報のデータ取得

2021年12月20日、データ登録機関向けの機能として、登録刊行物のダウンロード統計データを取得できる機能を公開した。ログイン後、[画面左] アクセス統計 - [ダウンロードの利用統計データ] ダウンロードで取得できる（図5）。ファイルはtsv形式で、エクセルで編集可能である。データの縦軸は刊行物、右軸は年月となっており、それぞれに月ごとのダウンロード数が記載されている。例えば、奈

文研刊行物でのダウンロード数で多いものは、『史跡頭塔発掘調査報告』（6,467ダウンロード）、『法隆寺若草伽藍跡発掘調査報告』（5,591ダウンロード）、『デジタルコンテンツを用いた遺跡の活用』（5378ダウンロード）であった。

4. 文化財論文ナビの公開

4.1 概要

2021年3月17日、全国遺跡報告総覧内に文化財論文ナビを公開した。

遺跡総覧内に文化財論文情報を登録できるようにした。登録されたデータは、文化財論文ナビとして、時代や種別、テーマごとに論文を検索できる。登録されたデータは、遺跡総覧からIRDBを通じてデータ連携し、CiNii Articlesで検索できるようになった（図8・9）。

文化財論文ナビでは、論文・報告・総括・資料紹

Template:全国遺跡報告総覧

```

[[ ]] テンプレートの解説 [表示] [編集] [履歴] [キャッシュを破棄]
奈良文化財研究所の全国遺跡報告総覧にある紹介ページにリンクするためのテンプレートです。

目次 [非表示]
1 使い方
2 引数
3 全国遺跡報告総覧を参考している記事
4 TemplateData

使い方 [ソースを編集]
[[全国遺跡報告総覧|id=ID|name=名前|accessdate=閲覧日]]
例:多賀城跡


- URL: https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/72310


外部リンク節に置く場合


- 入力: [[全国遺跡報告総覧|id=72310|name=多賀城跡]]
- 表示: 多賀城跡 - 奈良文化財研究所全国遺跡報告総覧


出典として使用する場合

```

図6 Wikipedia引用Template：全国遺跡報告総覧

Template:文化財論文ナビ

```

[[ ]] テンプレートの解説 [表示] [編集] [履歴] [キャッシュを破棄]
奈良文化財研究所の文化財論文ナビにある紹介ページにリンクするためのテンプレートです。

目次 [非表示]
1 使い方
2 引数
3 TemplateData

使い方 [ソースを編集]
[[文化財論文ナビ|id=ID|title=論文タイトル|accessdate=閲覧日]]
例:宮城県名取市十三塚遺跡出土の弥生土器


- URL: https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/article/15342


外部リンク節に置く場合


- 入力: [[文化財論文ナビ|id=15342|title=宮城県名取市十三塚遺跡出土の弥生土器]]
- 表示: 宮城県名取市十三塚遺跡出土の弥生土器 - 奈良文化財研究所文化財論文ナビ

```

図7 Wikipedia引用Template：文化財論文ナビ

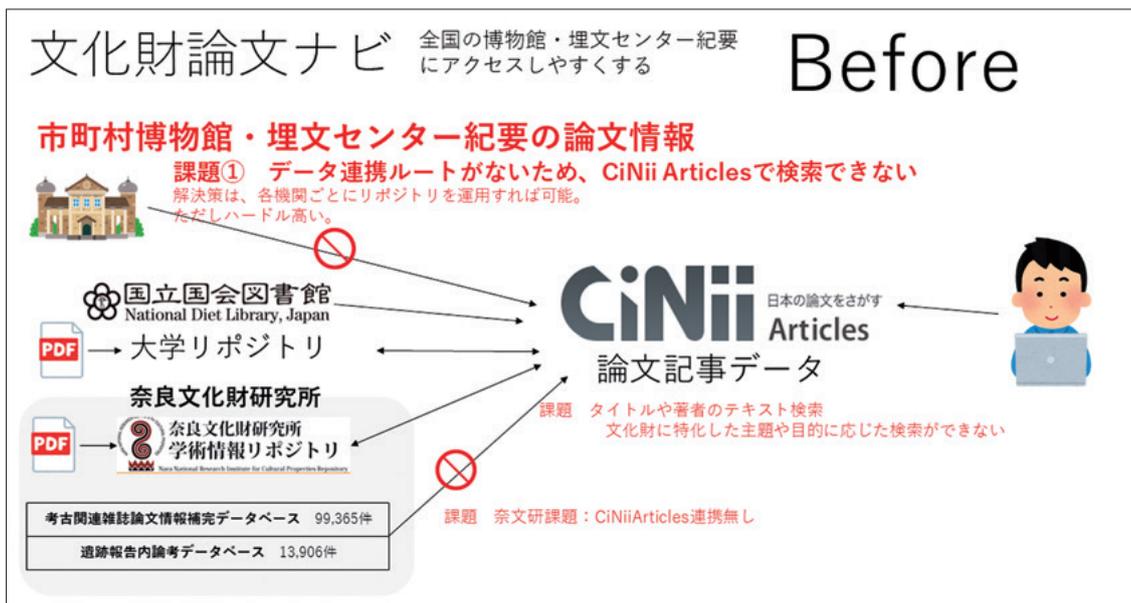


図8 文化財論文ナビ開発前の課題



図9 文化財論文ナビがもたらした効果

介・事業報告等をすべて総称して論文と呼称している。

公開日：2021年3月17日

名称：文化財論文ナビ

URL：<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/search-article>

4.2 開発の背景

国立国会図書館においては、効率的に情報を入手できるよう『雑誌記事索引』が作成されている。そのデータは国立情報学研究所が運営する CiNii Articles に連携され、CiNii Articles で学術情報を検索することができる。両事業は学術調査研究を支えるインフラとして、重要なデータベースである。しかしながら、発掘調査報告書内の論考は、そもそも記事採録が非常に困難です。また市町村博物館や埋

蔵文化財センターの刊行物は採録対象外である。このあたりの問題の所在は持田誠氏の報告に詳しい(https://doi.org/10.18960/seitai.66.1_265)。

奈文研では、文化財の調査研究に資するよう全国の文化財情報を整理し発信している。文化財の調査研究では、論文に限らず、資料報告にも資料の蓄積という観点から価値がある。そのような取り組みの一環で、考古学関連の論文情報を収集した「考古関連雑誌論文情報補完データベース」や発掘調査報告書等に含まれる論考を収集した「遺跡報告内論考データベース」を構築し運用していた。しかし利便性や更新等の観点から課題があった。

4.3 解決策

そこで、全国遺跡報告総覧内に文化財論文ナビを新たに開発した。以下のことが可能である。

- ・各機関が論文情報を Web 入力可能。入力の際には、時代やテーマ等を登録
- ・入力したデータは、IRDBを通じてデータ連携し、CiNii Articles で検索できるようになる
- ・既に CiNii Books 連携は 2016 年に実現しているため、1 回の Web 入力で、CiNii Books と CiNii Articles にデータ連携させることが可能
- ・論文ごとに時代やテーマ等が設定されており、文化財に特化した検索が可能

例えば、長野県の旧石器時代の石器に関する論文 https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/search-article?age%5B%5D=%E6%97%A7%E7%9F%B3%E5%99%A8&ibutu_category%5B%5D=%E7%9F%B3%E5%99%A8&pref_code%5B%5D=20

- ・登録論文ごとに DOI を付与

5. 都道府県の状況

都道府県別の PDF・書誌・抄録公開件数を表 3・表 4 に示す。2022 年 2 月 18 日時点。

表 4 都道府県別登録抄録数の推移

	2019年 12月25日時点	2020年 12月28日時点	2022年 2月18日時点
北海道	2,750	2,873	2,878
青森県	3,419	3,898	4,027
岩手県	3,280	3,460	3,624
宮城県	1,097	1,257	1,365
秋田県	2,320	2,366	2,379
山形県	1,299	1,304	1,312
福島県	4,066	4,263	4,627
茨城県	2,515	2,943	2,988
栃木県	1,078	1,216	995
群馬県	5,011	5,255	5,578
埼玉県	4,950	5,291	5,386
千葉県	7,815	7,862	8,401
東京都	3,836	4,363	4,506
神奈川県	1,579	1,725	1,743
新潟県	3,034	3,088	3,317
富山県	1,874	1,959	2,046
石川県	1,248	1,308	1,534
福井県	435	464	475
山梨県	705	713	718
長野県	3,925	4,127	4,267
岐阜県	1,852	2,261	2,602
静岡県	2,935	3,239	3,438
愛知県	2,162	2,254	2,316
三重県	2,397	2,429	2,564
滋賀県	2,254	2,388	2,399
京都府	4,894	5,341	5,666
大阪府	12,535	12,557	12,984
兵庫県	4,202	4,402	4,526
奈良県	3,811	5,834	5,965
和歌山県	1,600	1,670	1,697
鳥取県	1,834	1,853	1,906
島根県	3,655	3,729	3,744
岡山県	990	1,014	1,028
広島県	1,532	1,600	1,622
山口県	963	991	896
徳島県	405	413	453
香川県	1,899	2,023	2,102
愛媛県	1,180	1,211	1,228
高知県	474	478	478
福岡県	6,988	7,428	7,694
佐賀県	1,187	1,215	1,340
長崎県	1,040	1,080	1,162
熊本県	1,206	1,283	1,486
大分県	1,761	1,939	2,162
宮崎県	2,604	2,630	2,670
鹿児島県	1,724	1,792	1,817
沖縄県	838	881	1,014
合計	125,158	133,670	139,125

※遺跡抄録にて市町村コードがないものはカウント外のため、全体の件数と一致しない

※重複データの削除等で件数が減少することがある